【大正十四年四月二十二日第三種郵便物認可】　昭和二年九月廿二日　磐城新聞　【木曜日】　第二千四十九號　（一）

（廿一日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭日曜

定價（壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢）

廣告料（雜報欄行五十錢 特所指定三十錢增）

發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔

福島縣平町田町拾六

發行所　磐城新聞社

電話五六四番

磐城文化史を評す（下）

城山　大和田豊吉

磐城文化史は第一編第二編第三編に分ちて第一編は總論即ち其第一章には本郡の歴史的概觀と題して本郡の成立を述べ第二章には位置及廣袤を敍述し第二編磐城史即ち舊磐城四郡史題して其第一章には磐城史と本郡史との關係を論じ第二章には史前即ち本郡石器時代と題して有史以前の先住民族の狀態を記報し第三章には上古即ち陸奥創始時代と題して本縣の皇化に浴せる有様日本武尊の東夷征伐の當地方に於ける狀況及國造設置の事實等を記載し第四章には中古即ち本郡文化胚胎時代と題して舊菊多磐前磐城楢葉四郡の起原興亡の狀態を論じ石城のイシキにあらずしてイハキなる事を明かに示し更に勿來關の語義起原位置等を說明して遺憾なからしめ

そして第五章には中古即ち地方文物移入時代と題して蝦夷征討の模様磐城七社の起原五軍八幡の由來赤井嶽藥師堂及藥王寺惠日寺等の建立より前九年の役及後三年の役に及び磐城氏即ち平則道の磐城に入部するに說き及ぼし清衡の養女德姬の則道の妻となりて磐城に來りしより平泉の平を取りて居住の地を平と稱し後阿彌陀堂を建立して退隱しる地を平泉の泉を二字に對きて白水と稱したるなどと明かに說明し尼子橋を架設したる所以及稱等殘る隈なく說き明かし更に第六章に至りて近古史即ち磐城氏時代の一般を題して鎌倉時代の概觀より奥州、南北朝時代に說き及ぼし

吾人は南北朝時代には實に我が石城の天地は濛雲閉塞して天地晦冥一寸前も辨ぜざる暗黑時代にて人々は皆無知文盲のみと思ひきや陸奥守北畠顯家の配下に屬したる岩城氏の領分內とて流石に忠義の志士多く本郡に於ける南北朝の戰は仙道諸郡と同じく激烈を極めたるものにして其中心戰場は湯本植田間にして今の湯本及び舊菊多郡には總て官軍の根據地であつた殊に植田城に據りたる菊田庄司小山駿河權守朝鄉は白河の結城親朝（後足利氏に降る）と相應じて起ち又北畠顯家に從ひて奥州に來りて、廣橋修理亮は湯本城を築きて小山氏、瀧尻城と力を戮せ仙道に通ずる即ち湯本植田の二要口を死守したと云ふ、と云ふ記事を讀むに及んで流石に我が石城は妖雲吹き掃はれて青天白日古より大義名分が豊溢した良地方であると密に心を強うした是も磐城文化史の御陰である

而して其第七章には近古史即ち磐城氏時代第二と題して足利氏織田氏豊臣氏より此時代の城館分布の有樣を論じ古は磐城四十八館などゝ稱せられしものゝ諸根氏は百三十二ヶ所ありとの新發見說を提出し一々之に說明を加へ更に第八章には近世史即ち藩政時代と題して德川氏の中央集權より鳥居氏の平の築城內藤氏の諸政策安藤氏の藩政に及び文學博士三宅雪嶺氏が幕末に於ける三大政治家の一人なりと力を極めて推奬したる閣老安藤對馬守信正公を稱揚し更に本多氏、勤儉治績より笠間藩棚倉藩の治藩の梗概を說明し第九章に至り、王政復古と戊辰の役に關して詳細なる說明を施し茲に見逃すべからざる諸根氏の歴史上の新發見がある夫は東京上野東叡山寛永寺の住職公現法親王時に御年十九才後の陸軍大將北白川宮能久親王殿下が淺黃色の法衣を着し深網代笠に御顏を隱し給ひ平潟港より御上陸泉村大字玉露の甘露寺（今日は廢寺）に御一泊夫より平町高月臺飯野八幡神社々司飯野盛容氏邸に御一泊如何に幕末紛亂の世の中とは云へ金枝玉葉の御身を以て慽軻不遇をかこち給ひ蝦夷奴蝦夷奴なこそと唱へ給ひし勿來の關をも越え給ひて草深き東の片田舍に然も御二夜はござさすらへ給へることと恐れ多しとも恐れ多し此事實を知れる事も是磐城文化史の賜物である

夫より第三編石城郡制度史として明治維新の當時より大正の末年に至るまで約六十年間本郡の郡政の成跡公私立各學校の一般など詳細漏す所なく記述せられたるは頗る喜ばし

要するに謹嚴なる意味に於て歴史を著述するは容易の業にあらず豊富なる史實と犀利なる史眼と正確なる判斷と眞摯なる努力と著者の人格と合成一致して玆處に完璧なる歴史生ず此意味に於ける歷史眼より磐城文化史を批評すれば事實の誤れるもの判斷の正確ならざるもの今少し研究せられたきもの等俟指すべきもの頗る然れどもこは神ならざる人間に望むに然も同一人に望むには其嘱望餘りに大なり吾人は二版三版の後訂正增補せられ我が磐城文化史を大成せられん事を望む

但最後に著者と發行者に要求する二ヶ條の希望がある一は磐城文化史を廉價の普及版に再版して一般の希望に充てらるゝと二は磐城文化史の續篇即ち第四編より第七編までを速に出版せられて磐城文化史の完成を終了せられん事を望む。

明日の吉凶

舊暦八月廿一日

新暦九月廿二日

▲一白　肉身を當に仕過ぐる時は意外の手違ひを生ず▲二黑　急速の發展は望まれざるも刻々と吉に向ふ▲三碧　惱みたら行く先も時を待てば開け來るべし▲四緑　人より持ち込む相談事には口舌の生じ易き日▲五黃　見榮を飾らず無理をせずして生氣を養ふ勝▲六白　氣折れせず自らはげまして怠らざれば成功す▲七赤　一時にかん苦を忍べば大吉の日と成る▲八白　先をはかり過ぐるときは足元を却つておろそかになる▲九紫　自然の幸福をさづかる日就中文學の事に大吉

講談

[illegible]

(143)

高橋掬太郎創作

布施中八郎揮毫

奇怪な怪人

「妙信どの妙信どの」

と清左エ門は妙信尼の亡骸を抱きあげて餘りに無慘な最期にはら〳〵と落淚した。

「妙信どの許してくれ姬をお預け申したばかりに此の最期に氣の毒ぢや」

清左エ門は限りなく妙信尼の死を悼んだ。

「ほんに妾の方が斬られてもよいものを高德な妙信樣を殺したのは殘念でござりまする」

と乳人も聲の限り泣いた

其處へ重助の訴によつて町役人が駈けつけて來たが曲者の姿が見えないので乳人から曲者の樣子を聽取し妙信尼の死體を檢死して歸つた。

乳人の話を聞けば曲者は黑裝束に覆面して中に頭分らしい一人は天狗の假面を冠つてゐたといふ

神部は不思議に思つた

「天狗の假面を冠つた怪人といへば松並木に現れ往來の武士を斬つて捨てる怪人現に昨夜は自分と斬り結んだがあの怪人は成昌公に忠義の者である然らば姬を奪ふたのは何んのためであらう成昌公に忠義の者である以上姬に危害を加へる筈はないが何んの爲に盜み出したのであらうか」

と清左エ門は考へた

「或は昌康が姬に危害を加へやうとするのを知つて姬の身の安全をはかるために盜み出したのかも知れぬしかしそれにしては何故に妙信尼を斬つたのであらう？」

清左エ門は訝かつたしかし考へて見ると怪人は妙信尼が我が眞實の味方であることを知らないためたゞの人間と思つて斬つてしまつたのかも知れぬとも思はれた。

「だが七八人も一緒になつて忍び込んだといふのは怪人のやり方にしては少し變だ」

といふやうにも考へた。

しかも清左エ門は今日まで天狗假面の怪人は一人だけで活躍してゐるものとばかり思つてゐた清左エ門ばかりでなく誰しも同じやうに思つてゐたであらう。

これが以外にも七八人も黨を組んで入つたのであるから清左エ門が腑に落ちないと思つたのも無理がなかつた。

早間重太夫や奉行の川越軍治も報せを聞いて駈けつけて來た。彼等は姬が生きようか死なうが構ふのではなかつたが假りにも先君の姬君である以上は知らぬ振りは出來なかつた。內心はどうでも表面だけは打ち驚いた態でかけつけ行方を探さなくつてはならなかつた

「神部殿一大事でござりまするな先君成昌公に對して御申譯がない如何致してよからう」

と早間重太夫はさも驚いたやうに顏色を替へて清左エ門に云つた。

「左樣先君に對して御申譯ないことでござる川越氏も切腹位はせねばなるまい貴殿は奉行といふ役目の表存じるが？」

清左エ門は態とからかつて云つた。

「エッ！ナニ切腹……」

と川越軍治は忽ち蒼白になつた

「いや何も川越氏が切腹して御申譯をする事もござるまいそれより姬の行方を探す方が最大事と存じる左樣ではござらぬか」

と重太夫はあわてて反對した。

清左エ門はもとより二人を驚かしてやる氣で云つたに過ぎないので

「左樣でござるかいや大略は早間氏にお任せ申す、御前態はよろしくお願ひ申す」

巧みに重太夫に花を有たせた

吉田眼科醫院

平町
吉田眼科醫院

內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

深キ經驗ト
正シキ學理ヲ基トシテ
最新ノ設備ト
優秀ナル技巧ニ依リ
多產廉賣
益々聲價漲ル
萬年瓦
仙臺高等工業學校試驗證明
鐵道省
福島縣廳
栃木縣廳
青森縣廳
指定品
福島縣四倉町
萬年瓦工業株式會社
電話三八番

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科、小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、

耳鼻咽喉科專門
入院隨時（自炊の便あり）
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

齒科口腔一般
診療時間（午前七時ヨリ午後八時マデ）但シ急患ハ此限リニアラズ
平町南町成田山前
鈴木齒科醫院
齒科醫　鈴木五郎

健康禮讚
蜂ブドー酒
人生の最大な幸福は一家揃つて健康なることであります　美はしき皮膚の艶彩と魅力ある健康と美とを創造する蜂ブドー酒の食前常用は人間生活をヨリ光明へヨリ幸福へと導く唯一の捷徑であります
東京 大阪　合資會社 近藤利兵衞商店

秋！
活躍のシーズン來る
勞働勤務に運動に
指示正確なる
時計を
蓄音器とレコードの
御用は……
定評ある當店へ
TRADE MARK NIPPONOPHONE
平町四丁目
會田時計店
電話三六三

三百年の古い歷史と
他の模擬の出來ない
獨特の芳香と色澤を有つ
ヒゲタ醬油
釀造元　銚子醬油株式會社
平町田町
特約店　廣瀨支店
電話五四番

井上茂作氏を落さば
平町の損失とち辱
同情の町民猛然と起つて
吾等の味方井上候補を援護

縣議候補者
井上茂作氏

縣會議員候補者井上茂作氏は去る五日立候補を宣言して以來平町五丁目自邸の選舉本部には事務長星野浩吉氏を初め柏原幸次郎、鈴木長三郎、諸橋守治外平消防組の幹部並に大瀧發電所設置反對同盟の幹部の席にある有力者が詰め切り殆むど死力を盡して

萬全を劃し 自身井上氏は普選の精神を体し飽くまで言論を以て起つべく連日の各所に二回乃至三四回の政見發表演説會を開き力戰大いに努めてゐる、由來井上茂作氏は常に克く正しき政治を解し民衆の利益と健全な社會國家の建設をモットーに過去の前半生を政治の爲めに盡瘁して來た功績は顯著な事實である、殊に氏は近代政治家には稀に見る純潔の仁で大衆の利益の爲めには身を顧みない

熱血の士 である事は氏の政治的生活は私人生活の現在が最も雄辯に物語つてゐる、縣會議員、町會議員、縣消防協會常議員、赤十字支部評議員、小作爭議調停委員等を兼攝し平消防組頭たる外縣警察會長たること二回に及び更らに理想とする大日本消防協會は氏等の奔走により這般發會の運びに至り內務大臣會長の下に幹事長格を以て全國的に活躍する事となつた等氏の

偉大なる 功績は今や郡民の等しく知る所となり外に平町治の開發並に彼の水道問題その他各般種々の事業に對しては一家を顧みず熱誠を揮つてゐる事實等縣治に對する經驗と智識と手腕力量に至つてはそれらく縣下縣議候補者中些さかも人後に落ちるものでなく當然最大多數を以て當選すべき筈であるが如何にせん今次縣議戰に臨む立候補者の人的關係から

井上氏の 地盤は甚だしく蠶食され殊に某々一派の陰謀と宣傳により偉大なる實力手腕あり吾々民衆の味方たる同氏は惜しくも甚だしき苦境に起ち至つたので心ある有力な有權者等は如何にしても井上氏を當選せしめざる可らず、若し氏を落す如き事あらばそは郡民の政治的無自覺を

天下に晒し 取り返しのつかぬ損失と恥辱を購ふものであると正義の輿論と同情翕然と集まり殊に平町民の多數は婦女子、子供に至るまで必死の奮闘を續けてゐるから恐らく落選する如き事はあるまいけれども與に町を愛し、鄉土を憂ひ氏の爲めに心ある人々は如何なる情實も誘惑も斷然と排し井上氏の爲めに尊き一票を投ずべきであるとの輿論が非常に高まつてゐる

清き一票の行り所（六）

平町　JK生　投

餘す三日

吾々選舉人の縣會議員選舉に對する心懸け、就ては連日の紙上に揭ぐる所があつたから心ある諸賢は既に知悉して呉れられた事であろうと思ふ、其の心懸けを會得せられた人々は何れも其の投票すべき人物の選擇が愼重にし各自の投する一票を清き貴き一票たりとして之を疎にする樣な事かなかろうと思ふ、前にも述べた如く一票を投じ了れば萬事休するのである、それで事定まるのである。善にせよ、惡にせよ、其の投票によつて事決するのである、惡かつたと思つても取りかへしはつかぬ、泣いても悔むでも追着かぬのである、故に僅か餘す所の三日の間に各選舉人は篤と思案を定め投票に先を冷靜に考慮して其の信頼すべき人物を定め此の人ならば一地方一縣の代表として毫も差支へないと思ふ、候補者を物色して之に向つて各自の貴ぶべき一票を投ずる樣にしなければならぬ然らざれば天に向つて唾すると同じく結局は選舉人それ自身の顔を汚す樣になりはせぬかと思ふ。餘れる三日此の三日間は實に大切な三日である。各候補者各運動者に取りても勝敗の分れる大切な三日間であるだろうが各選舉人に取りては殊に大切であらねばならぬ、過去十數日の考へよりもコゝ三日間の考へが各選舉人の思案を決めるものであろう、千の考慮萬の研究も此の三日間限りである、此の三日間の思案如何によつて選良らしき選良を得るか如何はしい人物を得るか定まるのである、換言すれば縣會の尊嚴神聖が保持せらるゝや否や縣政宜しきを得るや否や共に此の三日間に於ける各選舉人の思案考慮如何によりて決するのである誠に大切な三日間である故に各選舉人たるものコノ大切な三日間をウカ〳〵と暮し各候補者各運動者の執念深き潜航艇式の醜運動などに誘惑さるゝ事なく決して其の選ぶ所を誤つてはならぬ、萬一誤らば後に必ず臍を噬むであろう。

無產階級を理解し
正しき政治を解く
聽衆を感動せしめる
井上氏政見要旨

井上茂作氏の卓越せる政見は各地演説會とも聽衆をして感動せしめずは措かぬものあり流石言論の雄者たる面目躍如たるものあるが同氏の演説大体の內容は「將來の政治家は資本主義であつてはならぬ、本縣の政治を見るに會社思想を理解し得ざる所謂資本主義的傾向が充備してゐるかの樣に見受けられる、即ち勞力に對し課税する事などその一列である、私はかうした不當の税金を徵收する代りに縣の財源を

水利使用 税を求めよと叫んだ東京電燈會社には十萬馬力の電力を豬苗代湖から得ながら本郡に一文の税金も拂はぬ如何に資本主義政治とは言へ實に不合理極まり無い話である私が一度び此水利使用税を叫ぶや縣下電氣業者は其大會に於て反對の決議をなした然し遂に多數を以て縣會で可決されるに至つたのである。現代の國家の向上を計るには農村振興である、私は嘗て深くこの事を感じ

當時具體 的方法が立案されてゐない當時に於て自作農を營まんとする者に必要な資金を貸與しそれを年賦で償還せしめる方法を考案し關東北諸縣大會席上で主張した、世人はこれを理想論として嘲笑した然るに該案が帝國議會で可決されたこれ即ち理想の實際化である。政治家は飽まで大なる理想を有たねば成らぬ同時に公明正大で無ければ成らぬ、政治とは國家が最高道德を行ふ事だとは眞理である、私は貧乏であるため往々にして侮辱的視線を向けられる事がある。然し私はそれを以て大なる誇りとしてゐる

何等苦痛 とは思つてゐないそれは私に政治とは國家が最高道德を行ふ學の眞理を私は充分知つてゐるからである、自巳の利益をむさぼる學を政治家の手腕力量と考へゐる人には私の高遠なる理想は判るものではない私は飽まで民衆政治を基調とし貧乏を標榜して正しき政治に生きる事に努めたいと思ふ」云々で經濟問題、農村振興、勞働問題等主として無產階級を理解せる滔々數千言、言々句々皆な熱と力の化身で聽衆は同氏の言論に對し多大の共鳴を惜まない模樣である

磐女講堂
明年度に新築

縣立磐城高等女學校現在の講堂は卒業式など多くの生徒父兄を入るゝに狭隘を感じ多年改築の懸案を樹て既に地均しは完了したが縣豫算の關係上未だその運びに至らなかつたが過般縣參事會の會計檢査に來平の一行に對しても學校當局より陳情する處あり約二萬圓の豫算にて來年度には着工の運びにならしい

平の選擧郵便
廿五萬突破
全く戰時狀態

平郵便局に於ける今次縣議選擧に際しての準備は既報の如くで告示と同時に持込まれた推薦狀挨拶狀依頼狀は二十日午前中迄に二十二萬通に達し最初同局の豫定に見込まれてゐた二十萬を突破する事二萬に達し尙二十四日午前中位迄は多少の差出しあるものと見て總數二十五萬を下らざるものと見て田村局長も其意外に多いのに驚いてゐたが從來迄の分は候補者及其關係者差出しもの當分位の狀態であつたが候補者には法定運動員に制限されてゐる結果が昨今では關係者からの發送が大部分を占めて來てゐるから結局其割合は候補者四弱關係者六强と言ふ割合になるであらうと

鈴木候補を呪ふ
或る一派の陰謀
全郡の同志俄かに緊張し
益々結束を堅む

縣議候補者鈴木辰三郎氏は各地に論陣を張り大成功を收めてゐるが今廿一日午後一時よりは泉村に、午後六時より小名濱町に政見發表演説會を開き氏一流の實質的政見を發表して聽衆を感動せしめてゐるが常に鈴木氏の勢力を嫉み事毎に陰謀手段を選ばない某一派は或る一派と通じ旺むに鈴木候補の失脚を謀り同氏の爲め不利益な宣傳をしてゐる模樣も必ずしも樂觀し得ざる狀態にあるとて全郡各町村に於ける鈴木候補の味方は昨今漸く緊張し積極的活動に移つたものゝ如くである

平町南裏の
新市街計劃
水田埋立進む

平町では去る大正十年來字南町裏に新市街地建設計劃を立て工費二十九萬九千餘圓の豫算を計上すでに大部分の埋め立てを終つたが肝腎な幹線道路も長橋町方面は未だ買收手續きすらも濟まず更に南北 通ずる三支線は南町まで買廻せしめる豫定であるが住宅地の立退き取拂ひには種々面倒な苦情も起り且縣費の補助もすでに本年度分は申請してから約五ケ月を經たに拘らず未だ查定すらもないので町では既定計劃が遲れ當初の見込みでは昭和三年度までに完成する筈であつたところ少なくも五ケ年位は工事竣功遲延を免れぬことになつたが一方南町裏の完成後は更に本部の立町裏方面の水田を市街地とする計劃が地主間に叫ばれてるので近く具體化するに至るであらう

秋のシーズンを迎え
運動界賑ふ
庭球野球の各チームが
必勝を期して練習

石城郡地方に於て近年急激の勢で發展してゐるスポーツ界も愈々秋のシーズンを迎え漸次緊張の度を加へてゐる、東北の王國と言はれてゐるだけ庭球熱の素晴しさは想像の外で更に數年前から擡頭した野球熱は昨秋來殆むと全盛に入り庭球熱にも匹敵すべき人氣を煽るに至つたがその中心となつてゐる在中、鐵道、田町、遞友、中學の四チームのリーグ戰は次の日割開催する事となり各チーム共全勝の榮冠を得んとして目下必死の猛練習を加へてゐる

（九月廿四日）午前九時から、中學對遞友一回戰、遞友對田町一回戰、田町對中學一回戰（九月廿五日）正午から鐵道對中學一回戰（十月二日）正午から田町對鐵道一回戰（十月九日）午前十時から遞友對鐵道一回戰、中學對遞友二回戰（十月十六日）午前十時から鐵道對遞友二回戰、中學對田町二回戰（十月廿三日）午前九時から中學對鐵道二回戰、田町對遞友二回戰、田町對鐵道二回戰にして尙ほ全部七回ゲームとし審判は試合せざる二チームより各一名の審判員を出す事に決定した

山代勞農黨候補の
資格に復た疑義
問題視された住所云々
最後は知事の肚

石城城より立候補せる勞農黨の山代吉宗氏は立候補届けには平町材木町三十八番地を住所として記載してあるが平町當局は右に對し「山代吉宗は石城郡磐崎村にたいて有權者名簿に

登載され てをるので下同村に住所を有するものと見られるも本人の住所地として届出でたるものは平町である以上有權者名簿作製後轉住したものと見られ從つて公民權を喪失したものではあるまいか」との疑義ありとし廿日縣地方課に照會し來つたが右につき縣地方課富澤屬に語る「届出書の審議は選擧長で出來ないので受理だけはしてゐるが果して住所を轉じ公民權を喪失してしまつたか何うかは縣として言明が出來ない何れ

選擧界で 問題にならねば知事が當選證書交付に當つて何う決定するかで決まることである

行方不明の青年
白骨となつて見參
內郷村地內の山林に
小心者の謎解く

好間村大字下好間字入舘布出卯三郎が昨廿日午前九時頃內郷村御臺境字鬼越地內の山林中で柴木樵りの歸途山林中松の立木の枝から白骨が吊り下つてゐるのを發見腰も拔さんばかりに驚いて直ちに平署に届出で佐々木部長が現場に急行し檢視すると

白骨は完 全な人骨若しや他殺屍体ではないかと平署は俄かに色めき立つたが現場附近に在つた帶、着衣、下駄等から窮ねて平署で行方搜査中だつた好間村中好間字銀治內木田丑吉弟萬二郎（二九）の屍骸なる事判明した自殺の原因は萬二郎は十年程前兩親に死別れ以來常に鬱々として昨今に至り增々憂鬱の度が加つたので家人も常に注意を怠らなかつたが去る七月廿九日午後六時頃

此細の事 で兄丑吉から小言を言はれたの極度に悲觀して家出前記の個所で縊死したものである

時言

淸貧に甘むじ過去の半生を正しき政治に打ち込んだ純情の人井上茂作氏を落さば、それは平町の大なる損失であり恥辱である

□

情實と因襲、惡魔の誘惑を斷然と排し以て正しく弱き井上候補を當選せしめてこそ、そこに俠義と意氣があるのだ

□

平町民惑ふこと勿れ、吾等は正しき信念の許に自由の權利を有效に行使し以て普選の全目的を達成すべき義務がある

□

奮ひ起て、愛町の士、吾等の有する一票は國家の隆衰興亡に係る貴重な權利である、惑はさるゝ勿れ惡魔の誘惑に

普選初頭の縣議戰に當り我國現下の時局に鑑み石城將來の發展を想ふ秋敢て余は茲に左の六名を推薦し極力その當選を祈る

井上茂作君
山崎吉平君
鈴木辰三郎君
古川傳一君
青沼鋒太郎君
田子健吉君

昭和二年九月
平町　荒川精一

故尾上松之助追悼大興行

噫……劇壇の巨人松之助氏逝いて早や一週年氏の映畫劇壇に奮闘せる其の藝術を追慕し茲に全國日活映畫・映館一齊に氏の主演映畫と上映す　當館は氏の遺せる千古不朽の寶玉篇を御熱望に依り再度上映す

大日活超作本邦映畫界の驚異
武士道精粹　荒木又衞右門　十七卷
故松之助一代の大作　出場人員三千餘名

松竹キネマ現代劇部特作
母性愛大悲劇　子を思ふ母　全七卷
主演　藤田陽子　八雲惠美子　小櫻葉子
助演　岡田宗太郎　出雲しろ子

當ル二十二日ヨリ公開　平舘

貸地廣告

平町郡役所より税務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします

御希望の方は電話なり戴けは社員が伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社
平出張所
電話　六〇三番　五四一番

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九